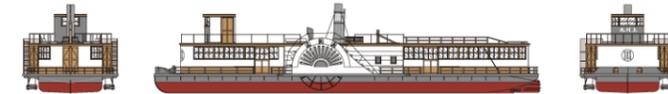


江別河川防災ステーション

EBETSU CITY RIVER DISASTER PREVENT STATION



防災ステーションの役割

1. 水防資機材の保管、土嚢を作成するための作業ヤードの確保及び土砂の備蓄
2. 水防団員のための仮眠スペース及び炊き出し機能の確保
3. 災害時（水害を除く）の避難所
4. 河川情報の提供の場
5. 防災・避難用品の展示や川の学習コーナー設置による防災意識の啓発や高揚
6. 水防訓練・生涯学習など体験学習の場としての活用
7. 江別の観光及び物産の紹介、販売



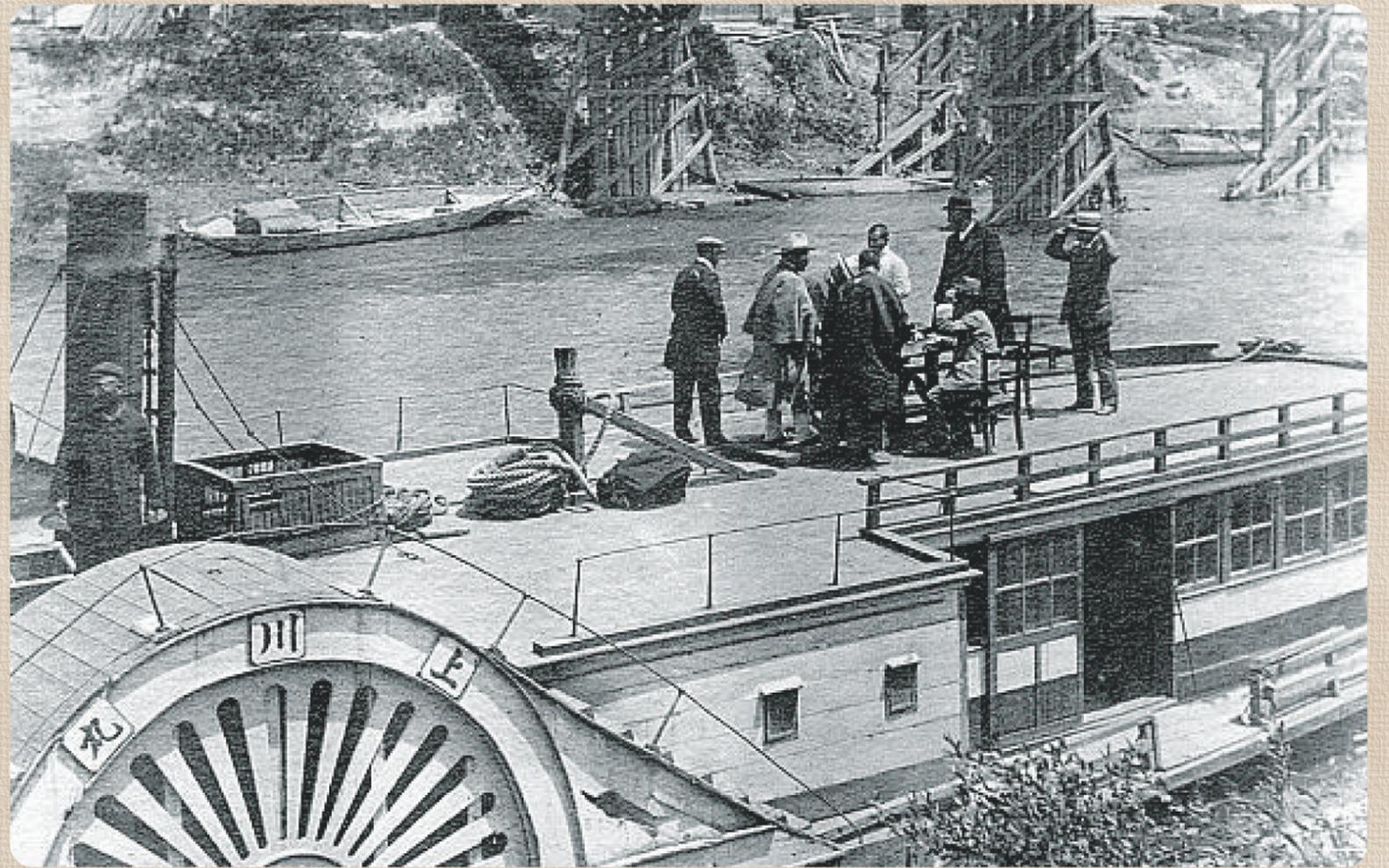
ご利用案内
 開館時間 9:00~18:30
 休館日 毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）
 年末年始 12月29日~1月3日
 住所 江別市大川通6
 お問い合わせ先 江別市建設部 都市建設課 (011-381-1045)
 防災ステーション (011-381-9177)
 入館無料
 印刷/江別市



江別港を拠点に石狩川を航行し
内陸部の発展に大活躍した

上川丸

story of kamikawa maru



舟運と鉄道が交わる「江別」

北海道へ移り住んだ最初の頃の開拓民たちは、「丸木舟」を使い川を移動して、生活物資を運搬していました。北海道で一番大きな川、石狩川は、そんな陸地での交通手段がなかった昔、唯一の交通路として利用されていました。

明治14年に北海道で最初の集治監（囚人を収容する施設）が樺戸（現在の月形町）にできると、囚人や生活物資を運ぶため、石狩川で船の行き来

が盛んになります。まずは汽船「第一樺戸丸」「第二樺戸丸」が石狩川～樺戸（月形）間に運行し、明治17年には新しく造られた監獄汽船「神威丸」「安心丸」が毎日のように石狩川を航行していました。

一方、陸地では鉄道の整備も進められ、明治15年には札幌～幌内間が開通し、江別駅でもできました。

江別は、石狩川の航路と鉄道が交わる場所で、江別港（現在の新江別橋のあたり）から、江別駅までの通りは、船で運ばれてきた農産物や木材の集まる場所としてにぎわっていました。

雨竜地域など石狩川の上流で収穫

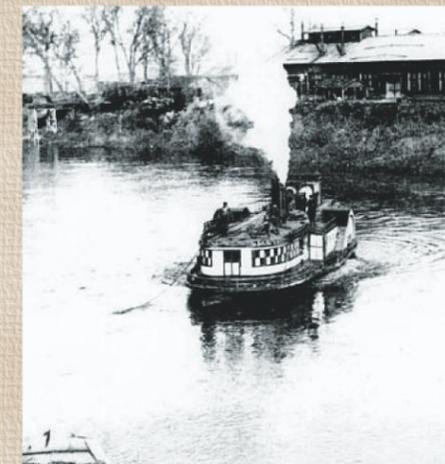
された農産物や木材は、船を使って江別まで運ばれ、江別で鉄道に積み替えられて、札幌や小樽まで運ばれていました。逆に、鉄道を使って小樽や札幌から運ばれた生活物資は、江別で船に積み替えられ、石狩川の上流地域へ運ばれました。江別港付近では、農産物をたくさん積んだ雑穀船が十数隻も走り回り、江別川（現在の千歳川）上流の長沼や千歳方面まで往復していました。秋になると、1隻の外輪船が4～5隻もの雑穀船をひいて、江別川沿いの倉庫に運び込んでいました。

上川丸の機能

石狩川で大活躍していた上川丸は、外輪式の鉄製の蒸気船で、石炭を燃やすことで発生する蒸気を利用して、船の中央部の両側にある車輪を動かして進みました。上川丸の構造は、船の前面に船員たちの客室があり、そのすぐ後ろには食堂・休憩室がありました。船の中央部は機関室で、後部は荷物置き場と客室になっていました。

船の上にある甲板には、操舵室と船長室がありました。船の底は平らになっていて、水深1m前後の所でも航行

できるようになっていました。船の航行速度は、上りは早足、下りは駆足ぐらいの速さだったそうです。



- 製造年/明治22(1889)年
- 購入・進水/明治22(1889)年8月
- 廃船/昭和10(1935)年1月
- 定係港/石狩国江別川
- 製造地名/東京石川島
- 製造者/株式会社石川島造船所
- 船の長さ/25m
- 船の幅/6.2m
- 深さ/1.1m
- 船の総トン数/60t
- 船の馬力/24.2(以後の手直しで67馬力を得る)
- 船の定員/60名(推定値)
- 速力/約7.8ノット(推定値)
- 船員数/船長以下 約8名(推定値)

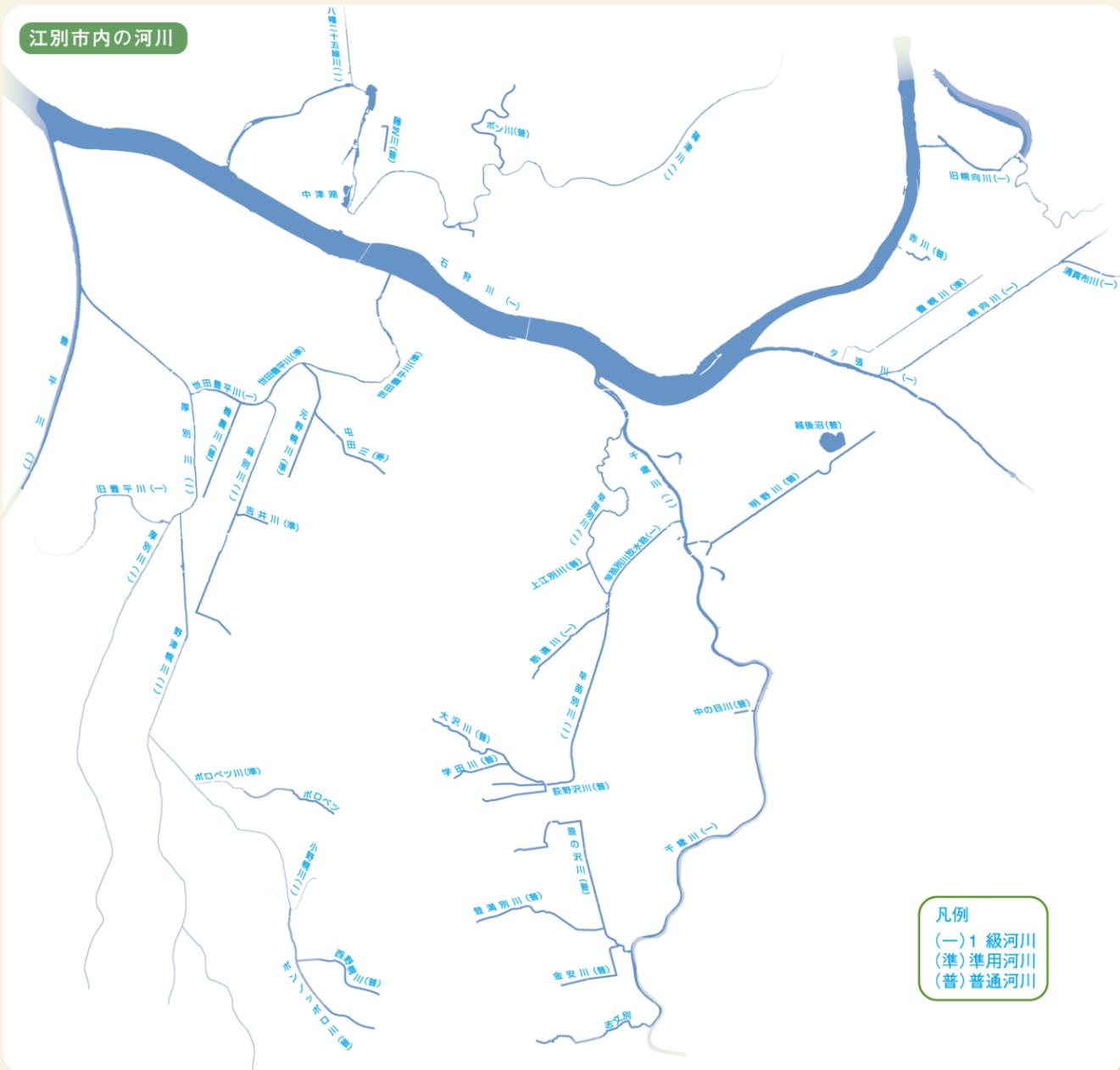


江別河川防災ステーションは、水防資器材の備蓄、水防活動の拠点基地や災害時の避難場所として活用。平常時においても、防災研修の場や河川情報の提供、川を題材とした歴史、川の恩恵などの展示をはじめ、防災意識の向上に努めるほか、市民の憩いの場として親しまれる空間づくりを展開しています。

河川管理の強化、緊急時の物資輸送、平常時の親水利用のための舟着き護岸を、防災ステーションと一体として整備しています。

舟着き護岸は、千歳川右岸に、河川水位の変動に対応できる乗下船ステップ、バリアフリーを考慮した船着場へのアクセススロープなどを整備しています。

江別市内の河川



- 凡例
- (一) 1級河川
 - (準) 準用河川
 - (普) 普通河川



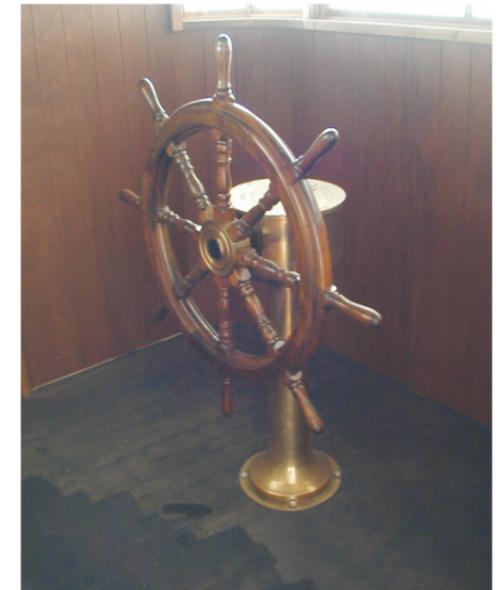
外輪 蒸気機関により、両側の車輪を動かして進んでいました。



パソコン 石狩川に関する情報を閲覧できます。



最上段デッキ 甲板の先端には操舵室があり、中央のロープで川船を4~5艘引いて入港していました。



操舵室 船長以下 約8名の船員が乗り込み、石狩から札幌の内(現在の浦臼)までを就航していました。

江別港・会社通ジオラマ



このジオラマは、明治44年に撮影された街の全景写真と当時の古写真などを参考にして、明治末期から大正初期にかけての江別港と会社通り(現在の条丁目21号道路)の様子を想像復元したものです。

網場ジオラマ



森林から伐採された原木は、雪解け水で増水した石狩川の本流をイカダに組まれ流送られ、川岸で引き揚げられます。この引き揚げ場を「網場」と言い、明治41年当時のものを想像復元したものです。

洪水による 甚大な被害

大雪山系の石狩岳からはじまり、多くの支流と合流しながら石狩平野を流れ日本海に注ぐ石狩川。この石狩川に代表されるように、北海道には数多くの川が流れ、大地へ豊かな潤いをもたらしています。また、魚や鳥などが集う川は、自然や歴史をはじめ、人々に多くのことを教えてくれます。



に観測史上最大の雨量を記録しました。

江別市でも、8月6日午前3時現在で326.4ミリメートルの雨量を記録。石狩川の最高水位は6日午前2時に9m20cmを記録し、昭和50年8月災害の最高水位7m91cmを大きく上回りました。

これにより各河川とも満水状況となり、各所で漏水、溢水、決壊状態が引き起こされました。江別市の避難地区の範囲は、野幌・大麻の高台地域を除き全市的におよびました。避難場所は、中央公民館ほか13カ所に設けられ、1,526世帯5,314人の人々が避難しました。家屋の全壊、床上・床下浸水は1,025棟、農畜舎を加えると1,910棟になりました。田畑の冠水・浸水は5,509ヘクタール、このほか肉用牛20頭、豚1,100頭、ニワトリ382羽が死亡または行

方不明となりました。

各地に甚大な被害をもたらした3日間降り続いた雨も、6日朝になってようやくやみ、北海道地方にもようやく晴れ間がのぞきました。しかしこの災害による江別市での被害総額は56億5,381万6,000円にもおよび、水が引いた後の街には、深刻な災害の爪痕が残されました。



石狩川左岸 千歳川合流付近の氾濫(昭和56年8月)



千歳川(昭和56年8月11日午前10時)



石狩川右岸 下新篠津築堤付近の氾濫(昭和56年8月)



水没した豊幌地区(昭和56年8月6日午前7時)

しかしその一方で、大雨などにより川があふれると、街は洪水という災害に見舞われてしまいます。北海道では、それまでの予想を越える洪水が発生し、街に大きな被害を与えてきました。その中で最も甚大な被害をもたらしたのが、昭和56年8月の集中豪雨による洪水でした。

発達した日本海低気圧による前線が北海道上空に停滞。この影響で8月3日から5日まで、道央部を南北に横切って強い雨雲が居座り続け、雨雲に沿った空知、石狩、胆振地方の一部に、降り始めから300ミリメートルを越える雨量をもたらしました。雨は、4日夜に一時峠を越すと予測されていましたが、三陸沖に達した台風12号の影響を受け、各市町村



幌向川(昭和56年8月 西1号橋付近)



文教台15号道路(昭和56年8月14日午後2時)

(昭和以降の水害)

| 発生年月 | 種類 | 原因 | 被害の概況 |
|--------|----------|-----------------------|--|
| 昭和3年9月 | 豪雨 | 千歳川溢水 | 家屋及び田畑の浸水、流失 |
| 5年8月 | 〃 | 石狩川・千歳川溢水、氾濫 | 〃 |
| 6年4月 | 融雪・異常低気圧 | 幌向川・千歳川溢水、氾濫 | 〃 |
| 5月 | 〃 | 石狩川・千歳川溢水 | 〃 |
| 7年8月 | 豪雨 | 石狩川・各支川溢水、氾濫 | 全道的に大水害となる。江別市街1.5m浸水、田畑4,123ha浸水 |
| 8年5月 | 融雪・豪雨 | 〃 | 江別地域の大半が被害を受ける |
| 10年8月 | 豪雨 | 千歳川溢水 | 家屋及び田畑の浸水、流失 |
| 18年4月 | 〃 | 幌向川氾濫 | 〃 |
| 20年7月 | 〃 | 石狩川・夕張川溢水 | 〃 |
| 21年11月 | 暴風雨 | 石狩川・各支川溢水 | 〃 |
| 22年4月 | 融雪 | 石狩川・幌向川溢水 | 〃 |
| 24年7月 | 集中豪雨 | 野津幌川氾濫 | 局所集中豪雨により道路の損壊、橋梁破壊、田畑浸水 |
| 25年8月 | 豪雨 | 千歳川・幌向川溢水 | 家屋及び田畑の浸水、流失 |
| 29年4月 | 融雪 | 旧豊平川排水氾濫 | 家屋及び田畑の浸水、流失 |
| 9月 | 暴風雨 | 台風15号 | 家屋全壊・半壊多数、農作物の90%壊滅、被害額134,600千円 |
| 30年4月 | 融雪 | 石狩川・各支川溢水、堤防決壊 | 家屋及び田畑の浸水、流失 |
| 31年4月 | 融雪 | 石狩川・各支川溢水、堤防決壊 | 家屋及び田畑の浸水、流失 |
| 9月 | 豪雨 | 野津幌川氾濫 | 田畑冠水650ha |
| 32年9月 | 豪雨 | 排水・小河川氾濫 | 家屋及び田畑の浸水950ha、被害額45,000千円 |
| 36年7月 | 集中豪雨 | 石狩川・各支川溢水、氾濫 | 家屋及び田畑の浸水1,000戸、6,085ha。被害額717,407千円 |
| 37年8月 | 暴風雨 | 台風9・10号、石狩川・各支川溢水、氾濫 | 家屋及び田畑の浸水1,135戸、6,861ha、被災者6,487人、被害額992,161千円 |
| 40年9月 | 暴風雨 | 台風23・24号、石狩川、各支川溢水、氾濫 | 家屋浸水、田畑浸冠水、台風23号120ha、24号2,262ha |
| 41年8月 | 集中豪雨 | 石狩川・各支川溢水 | 家屋浸水、田畑冠水400ha |
| 45年4月 | 融雪 | 内水湛水 | 床下63戸、田畑浸水300ha |
| 5月 | 〃 | 〃 | 床上27戸、床下48戸、田畑浸水1,078ha、道路冠水10.5km、被害額25,175千円 |
| 47年9月 | 集中豪雨 | 〃 | 床上6戸、畑作被害18.2ha、床下24戸、道路4カ所、被害額2,455千円 |
| 49年4月 | 暴風 | 低気圧 | 家屋等の全半壊、一部破損、被害額53,879千円 |
| 50年8月 | 豪雨 | 石狩川決壊溢水、各支川溢水、内水湛水 | 床上259戸、田畑浸冠水906ha |
| 8月 | 〃 | 台風6号 | 床下241戸、田畑浸冠水1,649ha、土木被害24カ所、死者1名、被害額1,150,000千円 |
| 54年10月 | 暴風雨 | 台風20号、内水湛水 | 床上1戸、床下23戸、田畑浸水130ha、被害額23,905千円 |
| 56年8月 | 集中豪雨 | 石狩川・各支川堤防決壊、溢水、氾濫 | 全壊4戸、床上浸水440戸、田畑浸冠水5,509ha、被害額5,653,816千円 |
| 8月 | 暴風雨 | 台風15号、内水湛水 | 床上浸水91戸、田畑浸冠水1,805ha、被害額659,845千円 |
| 62年8月 | 暴風雨 | 低気圧等 | 農作物等被害36,095千円 |
| 平成4年4月 | 融雪 | 融雪出水 | 河川、農業排水路等の法面崩壊、被害額190,400千円 |
| 9月 | 豪雨 | 内水湛水 | 床上8戸、床下28戸、被害額16,308千円 |
| 5年4月 | 融雪 | 融雪出水 | 農業排水路等の法面崩壊、河床変動、被害総額145,000千円 |
| 6年4月 | 融雪 | 融雪出水 | 農業排水路等の法面崩壊、被害額98,000千円 |
| 7年4月 | 融雪 | 融雪出水 | 農業排水路等の法面崩壊、河床変動、被害総額31,050千円 |
| 8年4月 | 融雪 | 融雪出水 | 農業排水路等の法面崩壊、河床変動、被害総額37,000千円 |
| 13年9月 | 豪雨 | 台風15号 | 農作物被害163,516千円 |